

うえすとさいど

法人設立 15 周年記念 バリアフリーな街ふせ 講演会・ショップ・パフォーマンスで大盛況

2025 年 2 月 11 日、「バリアフリーな街ふせ」を布施駅前商店街の「クレアホールふせ」で開催しました。今年は法人設立 15 周年記念特別ゲストとして、「うえすとさいど」第 54 号で特集したパラリンピック銅メダリスト松本義和さんをお招きし、講演をしていただきました。午後からは今回も多く事業所、地域のグループが多彩な店舗を開設し、にぎやかなパフォーマンスをくり広げました。会場には 100 人を超える人たちが集まり、講演、模擬店での飲食やショッピング、ステージを楽しんでいただきました。

■「まあいっか。なるようになる」

午前は、パラリンピック銅メダリスト松本義和さんの講演会を行いました。前号の「うえすとさいど」でお話いただいた高校時代のことやパラリンピックの志についても講演いただき、会場に来た方々も松本さんの思いに心打たれていました。「まあいっか。なるようになる」という明るい言葉もおっしゃっていましたが、その考え方になるまでに多くのことを経験し乗り越えられたことだと思います。



実際のメダルを見せてくださる姿も



常に笑顔で話される松本さん

柔道というスポーツを通して松本さんご自身が「自分」を取り戻したという人生に感銘を受けました。

■参加者から松本さんへのメッセージ（抜粋）

○青年時代に誰にも言えない体験をされ、失明された後も、次々と色々なことにチャレンジされている姿に、本当に感動しました。失った物ばかり見ず、何でも私自身挑戦したいです。

○視覚障害になり、かなり苦労とかあったと思いますが、柔道という出会いで自信持たれて今できることへ、色々挑戦されているとのこと、勇気をもらえました。

○明るい笑顔と力強い言葉、ありがとうございました。まだまだもっと聞いていたいと思いました。

○大変いい話、お言葉聞かせて頂き、本当に勉強になりました。今後の生き方に参考にして、楽しく生きていきたいと思っています。

まだまだ多くのメッセージをいただきました。松本さんにはすべてのメッセージをお送りしています。

第 4 面では「バリアフリーな街ふせ」での販売やワークショップ、ヒーローショーなどの様子をたくさんの写真とともに紹介いたします。
(4 面につづく)

法人設立 15 周年によせて～変わりゆく時代の中で～

2010 年から事業をスタートした本法人は、この春で 15 周年を迎えました。最初は「福祉専門職として、自由にやりたいことをやりたい」という私の長年の夢を実現しただけで、法人の行き先もよく見えないままの危うい船出でした。今思うといい加減なものだったなあと感じます。

東大阪は私を福祉専門職として育ててくれた町でもあり、見るに見かねた縁のある方々の力添えもあって、「バリアフリーな街ふせ（2010 年度開始）」のイベントや、「地域情報誌うえすとさいど（2011 年度開始）」の発刊など地域に向けた取り組みを比較的スムーズに始めることができました。

2012 年 7 月からふせまちかど相談所で障害児者の計画相談を始め、その後は 2016 年 8 月の居宅介護支援事業所（高齢者ケアマネ）の開設、そして 2021 年 10 月には児童発達支援・放課後等デイサービス「そだちの家まちかど」を開設し、その度にスタッフが増えていった結果、2025 年 2 月現在で正職員 8 人と非常勤職員 11 人を数える法人となりました。通常実施している上記の事業に加えて、地域に向けての事業を継続することで法人の事業に厚みが増したと感じています。

■設立 10 周年目にコロナ感染症のパンデミック

法人設立 10 周年記念イベントをたくさんの方に参加していただいて開催したのは 2020 年 2 月 11 日のことでした。すでにその頃、横浜港の観光船内で新型コロナがクラスターとなり、3 年に及ぶコロナ禍がじわりと始まっていました。その後はみなさんもお記憶にある通り、マスク生活、ソーシャルディスタンス、消毒の徹底といったすべてが感染対策中心の生活となってしまいました。この間は、法人でもコロナ対応に追われ、様々な制約の中で手足を縛られたような日々が過ぎていきます。2021 年 2 月のイベントは中止、2022 年 2 月のイベントは直前にスタッフ間にコロナが流行してしまい、やむなく 5 月へと延期されました。計画相談や放課後等デイサービスという事業活動だけでなく、地域活動・イベントが制約を受けたことは、法人にとっても大きな打撃となりました。

ようやく地域活動が再開されたのは 2023 年 5 月のコロナの感染症 5 類移行からでしょうか。現在は少しずつ

元の生活を取り戻していますが、コロナ禍の陰で時代に動きがあったことが感じられるようになっていきます。

■交流・協働の中で成長する拠点—を目標に

ひとつは、今まで地域の自治会やボランティアなどを担ってこられた方々が高齢でリタイアし始め、地域社会の支え手であった活動がコロナ前に戻りそうもないことです。単純に高齢者と現役世代の人口比に由来するだけでなく、自治会への加入率、ボランティア活動の参加率はともに低下し、若い世代の地域活動への意識の低下も大きな要因です。



ふたつめは、感染予防中心の生活に慣れてしまい、5 類移行後も高齢者の前ではマスクが手放せないような様子が見受けられています。高齢者施設の中では、今でも面会に一定の制限をかけている施設もあり、施設内の生活がノーマライゼーションからは遠い状況が続いています。

みつめは現役世代が少なくなったことで、介護人材の不足がより顕著になっています。20 年以上前から「介護人材不足は海外からの労働力で」という方針があったようですが、円安で海外の人たちからはメリットが薄い状況にあります。また、コロナ禍でも最前線で対応することになる医療介護職の職務や待遇にも大きな問題が残っています。

時代の変化は着実に進んでいて、先行きを不透明なものにしています。本法人は目の前にいらっしゃる利用者へのサービスに加え、多くの福祉課題を抱えた社会を意識して、私たちができることを考えながらこれからも地域活動を続けていこうと考えています。法人にはアルバイトやボランティア、実習生などで学生がたくさん来てくれるようになりました。若い方々が彼らの感覚で本法人の活動に参加し、これからの社会に必要なものは何かを一緒に考えていきたいと思ひます。「人が集まり、その中で協働や交流、そして人としての成長が生まれていく」そんな拠点として本法人が機能できることを目標に、次の 5 年・10 年に向けてのスタートとしていきます。

代表理事 前川 敦

昭和印刷

イベント情報

◆アミューフェス

日時：2025 年 4 月 26 日（土）12：00～15：00

場所：大蓮東公園 雨天決行

大雨の場合ハレアカラ 大蓮東 3-5-24 にて
屋台ゲーム、軽食、こま作り、ライブ演奏など

◆小阪病院「ウキウキバザー」

日時：2025 年 4 月 22 日（火）13：30～15：00

場所：小阪病院 1 階ブルーパール

（河内永和駅徒歩 5 分）

出店：社会福祉法人天心会地域生活支援センターふう
社会福祉法人ゆう なないろほ～む他
スマートボール、ミニゲーム、ガチャガチャなど



北欧の高福祉社会は移民が支えていた！ 大阪大谷大学 人間社会学部教授 秦 康宏さん

今回取材させていただいたのは、大阪大谷大学人間社会学部教授の秦康宏（はた・やすひろ）さん＝写真＝です。秦さんはふせ支援ネットワークの立ち上げから賛助会員としてご協力をいただいています。秦さんと私は、社会福祉士になったのが同期（1993 年）で、創設されたばかりの大阪社会福祉士会で一緒に活動しました。とはいえ、私が日々療育センターで子どもたちのケアをしていた頃に、秦さんは高齢分野で、介護保険が始まる前の転換期を最先端の現場で支えていました。知識も豊富なうえ実践力のある方で、当時いろんな情報を秦さんから教わりました。私が最初に受講した 2000 年の介護支援専門員実務研修では講師を務められていて、ケアマネジメントの実際をわかりやすく教えていただいたことを懐かしく思い出します。2000 年以降は介護保険制度が実際にスタートし、それを支える施設の管理者を務められ、度重なる制度改正の中で苦労も多かったそうです。

2007 年から大学の研究職として勤務されるようになり、2023 年から大阪大谷大学に着任されました。4 月からは心理・社会学科長を務められます。

これまで、「外国人介護人材の地域定着」テーマに貴重な研究・実践をされてきました。「きっかけは 1998 年、海外研修に行ったスウェーデンでの経験です。高福祉の国としてしか意識していなかったのですが、実は高福祉の現場で介護を担っている人材は海外から来た移民であることに驚きました。そして、超高齢化社会を迎える日本でも、いつか同じことが起こると思ったのです。それから 20 年以上を経て、予想通り高齢者介護には外国人がその多くを担うようになりました」

秦さんによると、外国人が国内で仕事をするには一定の条件が必要で、①EPA（経済連携協定）に基づいて介護福祉士候補として在留資格を得るルート②特定技能実習生として日本で一定期間の在留資格を得て働きながら学ぶルートの 2 つが代表的です。

「国家資格である介護福祉士に合格すれば、在留期間を何度も更新でき、無期限に仕事することが可能になります。現在では介護分野において、特定技能実習生を半年に 8000 人ほど受け入れるような状況があり、著しく増加しています。中には国家資格を取得した後、介護支援専門員を目指す方や、すでに中間管理職になられている方も出始めました」

「しかし課題も多く、彼らは言語も文化も違う国で生活を



することになるため、仕事や資格取得以前に多くの苦労があります。受け入れ側にもその生活を支援することが必要です」「生活支援等も含めてよい処遇をおこなっている老人施設には、評判を聞いて外国人の方々が集まっているという例もあります」と指摘します。

こうしたテーマを扱った『インドネシア人介護人材予定者から見た日本の介護老人福祉施設への就労イメージ』という論文に対して、

2023 年に「日本レセプト学会」から優秀賞・論文学術賞を受けています。

もとは社会福祉専門職の倫理、つまり「私たち専門職はどうあるべきか」ということを研究されていましたが、外国人労働者の増加という社会の流れの中で、ともすれば「使い捨て」のような発想をされてしまう介護人材をどう守っていくべきかに着目したことも、「私たちはどうあるべきか」を原点にしておられると感じました。「本当は実践と研究を両方続けてきたかったが、様々な縁があったことから研究職の道を歩むことになりました」と話す秦先生ですが、地域の現場で多くの苦労をされたことが研究に生かされていることがよくわかるインタビューでした。私と秦さんは歩む道は違いましたが、30 年以上同じ時代の中で、同じ目標を共有して活動してきたことをあらためて感じました。（前川 敦）

15 周年に寄せて

秦 康宏

開設当初からの微力な応援者として、ふせ支援ネットワークの 15 周年を心からお祝い申し上げます。代表の前川さんと出会ったのは、平成 3 年頃と思います。第 5 回社会福祉士国家試験受験予定者がさまざまなルートとご縁で合流し、大阪で勉強会を始めたのがきっかけです。以来、その優しい笑顔とネットワークを大切にされるお人柄に魅了され続けてきました。友人の一人であることを心から誇りに思います。

私の恩師である西光義敬は、(1984)「暮らしの中のカウンセリング」(有斐閣選書)の中で次のように述べました。「よく考えてみれば、人生は問題の連続であり、悩みは死ぬまで姿を変え、形を変え立ち現れます。ですから人間にとって本質的に重要なことは、人生に常に現れるどのような困難な問題にも自ら積極的に取り組み、これを処理していけるだけの力を個人が発揮できるようになることです」。

この本の副タイトルは、「育ち合う人間関係」です。そだちの家まちかどの「子どもが育つ、親も育つ、支援者も育つ、地域も育つ」という目標との重なりを強く感じる次第です。これからも地域にとって大切な法人であり続けていただけることを心から願っております。

ふせ支援ネットワーク賛助会員

東大阪店舗管理センター
カットハウス Am i
昭和印刷出版株式会社

Craftbeer Tavern
一般社団法人アミュー
アトリエからふる

法人 15 周年記念楽しさも栄養もたっぷり



写真上段＝（左から）みどり清朋高地域貢献部の「中河内戦隊セイ
ハウジャー」／「蓮Ⅱ」のパン／「アトリエからふる」のバザー
写真中段＝（左から）みどり清朋高校の出し物で遊ぶ子ども／リト
ルアリスのワークショップの様子／リトルアリスのボールペン／
写真下段＝（左から）「そだちの家まちかど」のストラックアウトで
遊ぶ子ども／「マジックショー」に集まる人々／「東大阪店舗管理
センター」のぜんざい／「ふせまちかど相談所」の利用者による展
示作品

（1 面よりつづく）

地域で活動する福祉事業所やグループ、サークルが集まって交流する「バリアフリーな街ふせ」（2月11日、布施駅前商店街「クレアホール」で開催）は午後には前年と同じように販売やワークショップも行いました。みどり清朋高校の地域貢献部によるパフォーマンスでは老若男女問わず、ヒーローの登場に歓声があがりました。マジックショーをやってくださった「ドリーム研究会」は今年初参加。簡単にできるマジックを教えるコーナーでは、子どもたちも目を輝かせて見ていました。「リトルアリス」のワークショップでは昨年と違った、ハーバリウムを使った作品があり大人気です。おなじみのぜんざいであたたまる人たちもいました。



また、今年は法人 15 周年ということで、「ふれあい工房」よりお弁当を販売していただきました。華やかで栄養満点！お客さんも美味しそうに食べられていました。

（川本 光璃）